

オホーツク管内教育実践表彰

オホーツク教育局は、令和5年度における管内教育実践表彰の受賞者を決定した。一般表彰は、2団体及び1名、初任段階表彰は3名、若手教職員表彰は1名の受賞となった。

昭和44年から実施しているもので、管内の学校教育や社会教育の充実・振興を図ることが目的。教育活動などの振興に大きく貢献したと認められる個人や団体をオホーツク教育局長が表彰している。

受賞団体及び個人の概要は次のとおり。

1 一般表彰

<団体>

(1) 北海道斜里高等学校

当該校は、内閣府が主催する「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募し、令和元年度から4年連続で『北海道経済産業局長賞』を受賞し、令和4年度には最優秀賞「地域創生担当大臣賞」を受賞するなど、課題解決のため、意欲的に取り組んでいる。

また、平成23年からはユネスコスクールの認定を受け、知床ユネスコ協会、知床財団や知床森林センター、博物館とも連携し、地域の特色を生かした環境に関する教育について推進するとともに、1年次には「知床自然体験学習」「史跡巡検学習」、2・3年次には商業科目「課題研究」における「知床学」、3年次には選択科目「知床自然概論」を設定する等、地域の特色を生かした環境に関する教育の工夫に取り組んでいる。

さらに、北海道高等学校総合学科教育研究大会等において、研究成果を発表し、研究集録に掲載される等、自校の研究成果を広く全道に発信している。

(2) NPO法人紋別文化連盟

当該団体は、文化団体相互の連絡協調と活動促進を図るとともに、オホーツク圏域の風土に根ざした芸術文化の発展と育成に努め、地域文化の振興と健康で情操豊かな町づくりに寄与することを目的として昭和30年(1955年)に設立され、平成20年(2008年)からはNPO法人として活動している団体である。

令和4年度に中学校の部活動地域移行のため、紋別市から業務委託を受け、9講座を開講し、生徒が生涯にわたって文化活動に親しむ基礎づくりに寄与するとともに、伝統文化活動の継承者育成に努めている。

また、令和5年度オホーツク管内社会教育主事・社会体育担当者等研修会において、紋別市における地域部活動の実践事例について講話を行うなど、管内市町村の部活動地域移行の取組の推進に係る足がかりをつくった。

<個人>

(3) 北見市立南中学校 伊藤 浩司 教諭

当該教諭は、令和元年度オホーツク管内学校体育研究会において研究授業を公開するとともに、令和4年度～令和5年度オホーツク管内学校体育研究会研究部長として、管内における体育教育推進の中心的な役割を果たしている。

また、令和4年度初任段階教員研修(2年次研修)において講師を務め、保健体育科の授業を公開するとともに、指導計画及び手立ての充実について、初任段階教員に指導助言を行った。

さらに、令和4年度中学校体力向上推進教員として、校内の体力向上プランを作成し、指導方法

等の工夫・改善に関する実践研究を行うとともに、自校の体育授業の改善や体力向上の取組について、実践概要を作成し、その成果物が道教委のHPに掲載されるなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。

2 初任段階表彰

(1) 北海道湧別高等学校 加藤 光城 教諭

当該教諭は、学校の魅力化について検討する校内の「魅力化検討プロジェクトチーム」のリーダーとして、教育課程の改善に努め、生徒の興味・関心に応じて探究学習を行う科目「湧別チャレンジ」の開設への道筋をつくった。

また、地域と協働する「総合的な探究の時間（未来計画）」において、その計画を立案する副チーフ及びホームルーム担任として、指導のプロセスや評価方法について研究し、課題探究型の学習の充実・発展に大きく寄与している。

さらに、令和4年度第60回北海道高等学校教育研究大会理科部会（生物）において、主体的・対話的で深い学びを実現するための「対話的授業実践」について研究発表を行い、研究紀要に掲載されるなど、自身の教育実践の成果を広く全道に発信している。

(2) 北海道津別高等学校 平子 裕 教諭

当該教諭は、北海道大学大学院教育学研究院社会教育研究室編『社会教育研究』において、「地域社会教育におけるアニメーションの生成過程」に係る論文発表を行い、研究を深めた。

また、札幌市立小学校「総合的な学習の時間」講師や、北海道大学「教職実践演習」講師として、教員としてのやりがいや魅力を道内の小学生や大学生に伝える活動を行っている。

さらに、北海道大学公共政策大学院の学生団体 HALLC と対面及びオンラインでの協議を通して、年間を通した「つべつ学」に係る高大連携カリキュラムの内容の改善・充実を図るとともに、地域のインターネット放送局である道東テレビと連携を図り、自ら道東テレビに出演し、北海道大学公共政策大学院と連携した「つべつ学」の取組の成果を広く発信している。

(3) 北海道北見柏陽高等学校 成田 明日香 教諭

当該教諭は、道教委が主催する、歴史総合の授業づくりに関する検討会に参加し、歴史総合の指導に関する研鑽を深めるとともに、自身の授業を全道の地歴公民科教員に配信し、「歴史的な見方・考え方を活用して生徒が主体的に探究に取り組むための授業づくり」について成果と課題を提示した。

また、令和5年度(2023年度)授業研究セミナー（道東ブロック・地歴公民）において、協力員として運営に協力し、歴史総合の授業における探究的な学びの在り方についての協議を深め、その成果を普及している。

さらに、令和5年度第61回北海道高等学校教育研究大会地歴公民部会（日本史）において、「歴史的な見方・考え方を育成する授業実践—探究活動に向けて—」と題して研究発表を行うなど、自身の教育実践の成果を広く全道に発信している。

3 若手教職員表彰

(1) 網走市立東小学校 渡場 陸 教諭

当該教諭は、GIGAスクール構想の実現に向けた取組の在り方に係り、1人1台端末を効果的に活用した授業改善や校務における組織的なICT活用の取組等について、自校はもとより、網走市学校ICT活用推進委員会において発表するなど、教育実践の成果を広く発信している。

また、「認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム」の推奨する「みち学習」において、児童が地域のよさを実感し、魅力を伝えたいという思いや願いを表現する活動でICTを効果的に活用し、情報を収集・整理・発信する場面について、公開研究会を通して管内の各校に発信し、管内教育の充実・発展に寄与している。

さらに、オホーツク夏の教育セミナー及び網走市学力向上フォーラムにおいて講師を務め、自身の生活科及び総合的な学習の時間における実践を発表するなど、特色ある教育実践を地域に広く発信している。